

授業科目名	【G】 刑法(総論) I	区分	開講年次	【G】2	単位数	【G】2		
		選択必修						
科目区分	専門科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブタイトル	犯罪論の前半部分			担当者	百花草 浩治			
授業概要	【概要】	犯罪論(犯罪の一般的成立要件に関する理論)の前半部分の基本的かつ重要な解釈論上の諸問題を講義する。なお、①予習・復習のやり方、②小テスト等の準備の仕方、③ノートの取り方等についての「授業への取り組み方」については、第1回目の講義において、詳しく説明するので、必ず出席すること。						
	【到達目標】	犯罪論の前半部分の基本的かつ重要な解釈論上の諸問題について、正確に理解できること。						
履修条件	特になし。ただし、第1回目の講義には必ず出席すること。							
アクティブラーニングの方法	【-】	事前学習型	【-】	反転授業	【-】	調査学習	【-】	フィールドワーク
	【○】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【-】	ロールプレイ
	【-】	プレゼンテーション	【-】	模擬授業	【-】	PBL	【-】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	- (当てはまらない)						
他科目との関連性	【刑事法関係の開講科目】刑法概論を受講のうえ、刑法(総論) I・II、刑法(各論) I・II、刑事訴訟法 I・IIを受講されたい。ただし、その順序は問わない。ほかに、情報法 I、特殊講義(特別刑法 I・II)、特殊講義(刑事政策)と講義内容において密接に関係する。							
教科書	特に指定しない。							
参考書	和田俊憲『どこでも刑法Ⅱ総論』有斐閣、辰井聡子ほか『刑法ガイドブック(総論)』信山社、井田良『入門刑法学総論』有斐閣、松宮孝明(編)『ハイブリッド刑法総論』法律文化社、佐久間修ほか『刑法基本講義総論・各論』有斐閣、内田幸隆ほか『刑法総論』有斐閣、井田良ほか『ケーススタディ刑法』日本評論社、成瀬幸典ほか(編)『判例プラクティス刑法 I 総論』信山社、井田良ほか(編)『刑法総論判例インデックス』商事法務【最新の版】など							
評価方法	小テスト[複数回実施]の合計点で評価する。							
フィードバック方法	①小テスト実施後に、全体的な状況についての「講評」を公開する。 ②講義内容に関する質問等は随時、受け付ける。必要に応じて、講義でもそれに触れる。							
評価基準	上記授業内容について、これをよく理解し、適切に表現できた者には、その程度に応じて「S」または「A」を与える。授業内容についての理解度や表現内容に十分ではない点がある者は、その程度に応じて「B」または「C」とし、授業内容についての理解自体が最低限度の水準に達していない者は、その程度に応じて「D」または「E」とする。小テストを全く受けていないなど評価不能な場合には「F」とする。							

授業科目名	【G】 刑法(総論) I	区分	開講年次	【G】2	単位数	【G】2
		選択必修				
授業回数	授業内容					
1	<p>イントロダクション: 講義全体を通じて、何を学ぶのかについて説明する。犯罪論(犯罪の一般的成立要件に関する理論)・概説。</p> <p>予習: 刑法概論の教科書、井田良『基礎から学ぶ刑事法』を再読する。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。</p>					
2	<p>因果関係論①概説</p> <p>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。</p>					
3	<p>因果関係論②ケーススタディ</p> <p>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。</p>					
4	<p>因果関係論③近時における最高裁判例の展開</p> <p>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。</p>					
5	<p>因果関係論④まとめ</p> <p>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。</p>					
6	<p>不作為犯論</p> <p>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。</p>					
7	<p>故意・錯誤論①概説</p> <p>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。</p>					
8	<p>故意・錯誤論②事実的故意の存否に関する判例</p> <p>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。</p>					
9	<p>故意・錯誤論③事実の錯誤に関する判例</p> <p>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。</p>					
10	<p>故意・錯誤論④まとめ</p> <p>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。</p>					
11	<p>過失犯論①概説</p> <p>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。</p>					
12	<p>過失犯論②判例の動き</p> <p>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。</p>					
13	<p>過失犯論③管理・監督過失</p> <p>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。</p>					
14	<p>過失犯論④まとめ</p> <p>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。</p>					
15	<p>最後の小テスト、全体のまとめ</p> <p>予習: 参考書・配布資料全体を改めて再読する。授業ノートの確認。 復習: 参考書・配布資料全体を改めて再読する。授業ノートの確認。</p>					
その他	<p>各自の参考書、配布資料、最新の六法を必ず持参すること。【受講上の注意】正当な理由のない、遅刻および途中退室後の再入室は認めない。私語、携帯電話の使用は禁止する。その他授業を真摯に受けようとする意思の認められない学生については、退室を命じる場合がある。</p> <p>授業ごとの予習・復習時間は、各90分程度を目安としてください。</p> <p>※Gカリ:【選択必修(D)】</p>					